

道徳学習指導案

1 主題名 集団生活の向上 「項目4－(4)」

2 主題設定の理由

人間は一人では生きていけず、わたしたちは毎日の様々な人間関係の集団の中で生活している。その集団においては、集団を維持するためのきまりを守るとともに、各々の役割を自覚し、責任をもってそれを果たすことが大切である。

中学生の時期は、学級を越えて委員会や部活動、生徒会活動など、より複雑で大きな集団の一員として過ごすことも増えてくる。自分や自分の身近な小集団のことだけではなく、学級、学年、学校という大きな集団をイメージしながらよりよい集団づくりを目指したい。さらに、それぞれが協力し合い、足りない部分を補え合えるような人間関係を築き上げる力を育てていきたい。

3 本時のねらい

自己の所属する集団のために、進んで自己の役割を果たすとともに、協力し合い、集団の向上に努めようとする心情を養う。

4 指導過程

●中心発問

指導過程	学習活動	主な発問と予想される反応	教師の働きかけ	資料
導入	方向付け 1 ラグビーワールドカップのDVDを視聴する。また、今日の登場人物について確認する。	◇この中でヒーローは誰だと思いますか。 ・五郎丸歩選手 ・リーチ・マイケル選手	・視覚的資料を用いて生徒の興味・関心を高める。 ・廣瀬選手についてどの程度知っているか確かめ、読み物資料への導入の手立てとする。	日本代表の試合の動画
展開	価値の追求 2 資料を読んで廣瀬選手が信頼されている理由について考える。 (1)廣瀬選手の言葉を考え、ワークシートに記入する。	◇廣瀬選手が試合に出られないとわかったときの彼の言葉を考えてみましょう。 ・努力の無駄だった ・つらいし、悔しい	・資料の冒頭を読む。 ・ラグビーを知らない生徒にもわかりやすいよう解説を加えながら確認する。 ・生徒の意見を板書する。	・資料 ・ワークシート
	(2)廣瀬選手の言う「やるべきこと」とは何か考える。	◇彼の言葉にある「やるべきこと」とは何でしょうか。 ・相手国の動きを徹底的に研究 ・ロッカールームの掃除	・資料の続きを読む。 ・プリントに線を引きながら読むよう指示する。 ・生徒の意見を板書する。	
	3 廣瀬選手の行動の核心について、グループで話し合い、発表する。	●試合に出ることができずに悔しいはずの彼が、なぜそのようなことができたのですか。 ・元主将として、責任を果たそうとしたから ・強い心を持っていたから ・それだけ仲間を大切に思っているから	・話し合いを行う場合、他人の意見に耳を傾け、お互いの意見を尊重するよう指示する。 ・教師は、小集団の語り合いに加わり、語り合いの内容を深める。	
内面的自覚	4 「私たちの道徳」P168に記入する。	◇今までの自分の行動や考え方を振り返ってみましょう。	○集団の一員としての自分の役割を確認し、自己有用感を高められるようにする。	私たちの道徳
終末	まとめ 5 教師の説話を聞く。		・仲間のために自分に何ができるかを考え、行動できる人がヒーローであり、それが本物の「one for all」であることを伝えたい。	ワークシート

8 事後指導

係活動や委員会活動など、集団生活の向上のための自発的な活動につなげたい。授業での資料や話し合いを振り返るなど、日常的に適切な指導をしていきたい。